

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和5年3月18日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4673000156
法人名	医療法人 佑志会
事業所名	グループホーム 花々館
所在地	鹿児島県日置市伊集院町徳重三丁目3番地14 (電話) 099-273-8787
自己評価作成日	令和5年2月3日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/content/wamnet/pcpub/top/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センター福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	令和5年3月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様やご家族の皆様が安心して穏やかな毎日が過ごせるような施設作りを心がけています。現在はコロナ禍で思うように地域や家族との交流や行事参加も減ってきていますが、感染症対策を徹底し、地域や家族との交流が減らないように心がけています。医療連携の強化を図り、入居者様の健康管理を24時間体制で見守っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・当事業所は近距離にJR駅や商店街・飲食店があり、生活の利便性が高い環境にある。また、近距離に協力医療機関もあり、週1~3回、送迎車でリハビリ通院支援や24時間医療連携体制のもと適切な医療を受けられるよう支援している。
- ・職員は利用者一人ひとりとゆっくり関われる時間を大切にしている。
- ・事業所内のレクリエーションを工夫し利用者が楽しめる支援をしている。
- ・職員は面会時には笑顔で対応し状況を詳しく報告したり、家族の話をよく傾聴する等、家族の思いに添った支援に努めている。
- ・職員は法人内研修や事業所での勉強会、月1回の院内研修に参加しスキルアップに努めている。参加できなかった場合は資料を配布し、全職員が自己研鑽に努めている。
- ・管理者は職員の意見や提案など、話しやすい雰囲気作りを心がけ、職員も日常的に意見を言える環境で、職員間も相談や話し合いができる関係を構築している。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	毎朝申し送り後に理念の唱和を行っている。	理念はパンフレットに掲載している。理念を毎朝申し送り後に唱和し、共有してケア実践している。月1回のミーティングやカンファレンスでも振りかえり支援に繋げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会への加入もしており、近所の方々とは挨拶を交わしている。地域の行事にも参加できるものには参加しているが、現在はコロナ禍で参加できていない。	自治会へ加入し、自治会長の訪問で地域情報を得ている。地域行事が自粛され参加できていないが、散歩時に近隣住民との挨拶等を交わしている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	日置市の現状や認知症の症状等の理解を運営推進会議を利用して発信している。中学生の職場体験や高校生の実習の受け入れも行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回運営推進会議を開催しています。自治会の代表、行政の方々の参加も得ています。活動状況や事故報告等を行い、サービス向上へ活かすように努めている。	コロナ感染防止により2ヶ月に1回書面での開催を実施している。入居者の状況、事故やインシデント、行事予定と実施などの活動状況を郵送や手渡しで報告している。意見はサービス向上に活かすようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。</p>	<p>関係機関へ情報収集を行ったり、助言を頂いている。</p>	<p>市担当者とは直接窓口に出向き更新や相談、情報収集を行い、電話でも相談する等、助言を頂いている。生活保護課とは年1回の訪問時に情報提供し、情報の共有をする等、協力関係を築いている。市主催の研修には会場に出向いての研修やオンライン研修に参加し職員に伝達している。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>身体拘束委員会を中心に学び、共有意識を図っている。</p>	<p>身体拘束廃止委員会を2ヶ月に1回マニュアルを基に勉強会を実施し虐待防止のセルフチェックやスピーチロック等を学んでいる。不適切な言葉遣いがある場合は職員間で注意しあい、拘束をしないケアに取り組んでいる。日中の玄関施錠はせず、外出したい様子の場合は傾聴したり話題を変えたり、敷地内の駐車場を散歩する等の支援をしている。危険防止目的で夜間帯のみセンサー使用し定期的に話し合い記録している場合もある。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>3か月に1回セルフチェックを行っている。また、利用者の身体状況を観察し、虐待防止に努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	行政に勉強会に依頼をし、全職員が権利擁護に対しての認識を深める様に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	説明を充分に行ない、利用者や家族の方の不安や疑問を和らげ、必要に応じて繰り返し説明を行なうことで、理解納得し絵頂けるように努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者と話をする機会をもち、利用者の行動や表情から思いを察し、ケアに活かせるように努めている。ご家族に関しては、面会へ来られた時に相談・話やすい雰囲気作りに努めている。	日々の関わりの中で意識して利用者と話をする機会を持ち、意見や要望を聞いている。家族からは面会時に笑顔で対応し生活状況など報告し意見や相談等を言える機会を設けている。定期的に電話で近況報告し意見や要望を聞くようにして、支援に活かしている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月1回スタッフ会議を開催している。日々の申し送りを利用し、スタッフの意見を聞き、検討、改善に努めている。	管理者は毎月職員会議やユニット会議・申し送り・日々のコミュニケーションで意見や提案を聞いている。どうしたいかの投げかけをする等、意見が言いやすい雰囲気作りをしている。改善点として浴室の縦型手すりから横型手すりへ改修後、動作がスムーズになった。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>職員の資格取得に向けた支援を行っている。</p>		
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>コロナ禍で法人内外の研修への参加する人数制限があるが、出来る限り参加するようにしている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>向上委員会を開催しており、その中で情報共有を図り、質の向上に向けて取り組んでいる。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入居前の聞き取り、面談を行っている。また、入居後はスタッフに話しかけやすい雰囲気作りを心がけている。</p>		
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>家族の方も気軽に相談しやすい雰囲気作りを行い、信頼関係を築きやすい様に努めている。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>本人や家族からの意向だけでなく、職員からの意見も聞き取り、本人様へあったサービスも提供出来る様に努めている。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>入居者のこれまでの生活習慣のなかでの出来事、得意な事をさりげなく自然な形で取り組んで頂けるように声かけ、場面作りを行っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	窓越し面会時に日頃の様子を報告したり、電話を取り次ぐ等の支援を行っている。食事や水分が進まない時は家族にも相談して、一緒に考えるなどしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人・知人との関係が絶えることがない様に家族の方にも協力を頂きながら支援に努めている。	家族や友人の窓越し面会では家族の思いを本人へ伝えたり、写真撮影などの交流を職員がサポートしている。利用者持参の携帯電話のサポートや電話・はがき・手紙の取次等で関係性が途切れない支援に努めている。定期的に馴染みの訪問理美容師が来ている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う方同士の座席に配慮し、居室たフロア等での何気ない会話や活動が充実できるように工夫している。必要に応じては職員が介入している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も必要に応じて、家族、利用者の相談や支援が出来るような関係性に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	定期的にサービス内容の確認で意向を把握したり、日々のコミュニケーションから引き出している。	日々のコミュニケーションの中で、特にお茶の前後や夕食の時間までを活用し1人ずつ話しをして思いや意向の把握をしている。困難な場合はそわそわするなどの行動の変化や気づきノートから日常の変化を捉え、生活歴を理解し、職員間で意見交換を行い支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の生活歴などの情報を収集し、職員同士で情報共有を図る為にカンファレンスを行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	年齢等を配慮し、1人1人自由に見守り、声掛けの中で過ごしてもらう。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にカンファレンスを行っている。その中でプランの内容を確認し、プランに反映している。	本人や家族の意向を聞き、必要時主治医の意見、定期的なカンファレンスでの意見を取り入れ現状の健康状態に即した介護計画を作成している。モニタリングは3ヶ月毎、6ヶ月に1回見直しているが状況変化時はその都度見直し現状に即した介護計画を作成している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録とは別に特記することがあれば、ケアの記録を取り、見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	1人1人にあったサービスを提供出来る様に看護師等を中心に行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行政との連携、中・高校生の実習を受け入れることで、個人の力が発揮できるように支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医のほか、利用前からかかりつけ医及び他科診療も受けられるよう家族の協力のもと通院介助を行っている。	入所前からのかかりつけ医や協力医療機関との関係を築きながら週2回のリハビリ通院支援、年2回の定期検診や職員看護師による健康チェックを実施し、他科受診も職員が付き添っている。緊急時も24時間医療連携体制で適切な医療を受けられるように支援している。2ヶ月に1回歯科医の訪問診療や必要時往診で対応している。検診結果や健康状態は訪問時やその都度報告している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>日中の見守り、ケアで気付いたことを医療連携ナースに随時報告し、適切な医療や看護が受けられるようにし、週1回訪問時に状況の報告をしている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>病棟看護師、ソーシャルワーカーと連携を図り、可能な限り早期退院できるように支援している。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>ホームでの終末期はしていない為、重度化した場合は、家族へ相談し、医療連携機関と協力を行いながら支援している。</p>	<p>入居契約時、重度化対応介護指針のマニュアルを基に説明し同意書を貰っている。重度化した場合は主治医から説明を行い、家族の意向を確認し、共有しながら家族・医療機関と連携しながら支援している。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>急変時や緊急時は主治医・看護師にいつでも連絡が取れている。また、緊急時のマニュアル、事故防止対策、緊急連絡網を作成し、定期的に行っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>毎月、自主訓練を行い、年2回は消防署立ち合いのもと訓練を行っている。</p>	<p>年1回消防署立会で避難訓練を計画していたが、コロナ感染対策を優先し、コンセントの埃掃除等を実施した。2ヶ月毎の自主訓練を昼想定で漏電による火災、風水害の避難誘導訓練のシュミレーションを行い、避難訓練を実施している。避難場所は駐車場である。近距離に協力医療機関もあり協力体制がある。近隣住民にも声かけし協力体制を整えていく計画である。備蓄は水・ご飯・味噌汁・缶詰・カレー・レトルト食品等を3日分とカセットコンロ・懐中電灯がある。</p>	
<p>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p>					
36	14	<p>○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保</p> <p>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>職員の意識向上を図り、利用者1人1人の人格を尊重し、不適切な声かけや対応を行わないように心がけている。</p>	<p>法人の研修で人権擁護や接遇マナーを学び、事業所内でも言葉遣いや認知症ケアについて学習し、スキルアップに努めている。排泄や入浴時は声掛けの工夫をしたり、ドアを閉める等、羞恥心に配慮し個別に応じて対応している。入室時はノックし、声かけは苗字や名前ですん付けで呼んでいる。あらゆる場面で自己決定できるように支援を心がけている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	コミュニケーションを取る中で、本人様の思いや意向を表現できる場作りに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の健康状態や体調に合わせて食事や入浴の時間をずらしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	利用者の出来る範囲で選んでもらっている。定期的に衣替えやタンスの整理を行っている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者1人1人に合わせて食べやすい様に食事形態を工夫している。行事の時は、それにあった献立を提供している。	6ヶ月毎に嗜好調査を実施し、法人栄養士に伝えている。食形態は普通食からトロミ食まで嚥下状態に応じて提供している。手作りのお節やちらし寿司等の行事食、毎月の誕生会には手作りケーキやロールケーキにデコレーションを工夫し楽しみとなっている。食事前の準備や片付けの皿を集めたり台拭き等、職員と一緒にやっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1人1人の食事量・水分量の記録、月1回の体重測定を実施し、結果を看護師、管理栄養士と情報共有し改善に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食前には口腔体操を行っている。毎食後口腔ケアを行い、夜間は義歯洗浄を行っている。必要に応じて訪問歯科を受診し、助言をもらい、口腔状態の維持・改善に努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	1人1人の排泄リズムを把握し、時間を決めてトイレ誘導を行い、トイレで排泄出来る様に支援している。	排泄チェック表で排泄リズムを把握し、それぞれの時間帯、そわそわしたり急に立ち上がる動作が見られた時はトイレ誘導し排泄支援している。リハビリパンツに尿取りパットを使用している。パットの使用量が減少傾向にある。夜間はおむつ対応してトイレ誘導している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事や水分量に注意し、適度に身体を動かす機会を作り、腹部マッサージを行い、出来るだけ下剤に頼らず、自然排便出来る様に努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	入浴する順番はなるべく希望に合わせて入浴している。必要に応じて足浴も行っている。	基本的に週3回の入浴支援で順番や湯温は希望で調整している。浴槽の場合は入浴剤を使用している。拒否がある場合は時間をずらしたり、曜日を変更し無理強いせず、全身清拭や足浴支援をしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣として、食後は時間を決めて、休息出来る様にしている。また、エアコン等を利用して環境整備を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬チェック表を活用し、薬の個数をダブルチェックで確認し、誤薬、飲み忘れがない様に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の好みを引き出し、ゲームや歌、体操などを取り入れ支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	コロナ禍で外出・外泊することが難しい現状にあるが、個別で外気浴をしたりしている。定期的な外出として、家族、本人の希望により、守屋病院へ週1~3回リハビリ通院を行っている。	コロナ禍で外出支援は自粛している。天気の良い日は個別にフロア前にある駐車場に出て日光浴や外気浴、近隣の散歩支援をしている。週1~3回の協力医療機関へ送迎車でリハビリ通院し、帰路にドライブ支援をしている。事業所内では食事前に歌を歌ったり、新聞で作成した球でレクリエーションを楽しんでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>お金を持っている人はいませんが、預り金を預かっている利用者に関しては、訪問美容や買い物等の支援を行っている。お金を預かっていない利用者に関しては、ご家族に物品等を依頼している。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>家族・知人へ連絡したいと言われれば職員が連絡し、会話してもらっている。年に1回年賀状をご家族には出している。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>清潔を保てるように環境整備（消毒・照明・湿度・温度等）に努め、動線の確保や話やすい配置の工夫を行っている。</p>	<p>駐車場と面しているフロアはコロナ禍の為、消毒や清掃・換気を定期的に行い感染対策を厳重に行っている。採光は遮光カーテンで調整しエアコンで環境調整している。テレビやラジカセ・テーブル・椅子・ソファを配置し、雑誌や新聞などを読んで自由に過ごされている。壁にはひな祭りの入居者の写真や塗り絵を掲示し、ホワイトボードもあり、季節感や生活感を取り入れ配置等、工夫している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>フロアにソファ置き、好きな場所でゆっくり過ごせるにしている。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>生活習慣を崩さずに、本人様が使い慣れた物を持ってきていただき、安心して生活が出来るように支援している。</p>	<p>居室は折りたたみのサイドレール取り付けの電動ベット又はギャッチベットやエアコン、タンスが設置され、寝具はリースで毎週交換している。テレビやサイドテーブル、ハンガーラック、ランプ付きの非常用ラジオ、遺影、誕生日等のお祝いカード、孫や家族写真が飾られている。自分らしい居室で好きな新聞購読をして過ごしている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>必要と思われるところに手すり等の設置をしたり、起居動作がしやすいようにベッドサイドレールの交換等、残存機能・能力が安心して活かせるように工夫している。</p>		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)		1 毎日ある
		○	2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ全ての家族と
		○	2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
		○	2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない